



国土交通大臣賞

講評： 2階建を平屋に「減築」リフォームした作品である。

もともとこの家は一部2階建てで、16年前に総2階に増築されているが、施主夫妻の両親が他界し、子供も巣立ったので、老後の生活を見込んで定年前にリフォームを決意されたものである。

夫人の足が少し不自由なことから、メンテナンスや掃除のことなどを考慮して、事実上使っていなかった2階部分の除去に踏み切っている。基本プランは以前の1階の構成と変わっていないが、階段がなくなってスペースに余裕が生まれたため、水回りの使い勝手が大幅に改善されている。

また耐震性向上のため、1階の南側外壁面の開口幅を縮小し、耐震壁を増やすなどしているが、興味深いのは2階床面をそのまま利用しながら剛性補強している点で、減築による「裏技的」耐震手法と見ることができる。立面プロポーションが縦に長く、大らかさを感じさせる表情になっているのはそのためである。断熱性能も、当然、大幅に改善されている。

インテリアは、濃い色の木部と明るい色の壁紙に統一されているが、居間に続く畳コーナーは濃いグレーの壁である。引戸を閉めると、秀逸な寸法の取り方もあって何とも落ち着いたスペースが出現する。この四畳半の和室は、中央の掘り炬燵風テーブル部分以外は全面床下収納となっている。40cmほど上がっているが、腰掛けやすいベンチとして有効に機能しているし、上り段すらも収納スペースにするなどきめ細かな工夫もある。

床面積を減らすことは、収納量や予備スペースを減らすことになるが、この住宅では、死蔵状態の荷物は思い切って整理し、「減築」

に相応しい身軽な住み方を選択し、実現している。荷物の整理にあたっては、残すものと廃棄するものの仕分けや収納量の算定を、設計者が施主と共に時間をかけて行うなど苦勞のあとが感じられる。

緑濃い鎌倉の風致地区に建つため、外壁の色や形態は、周辺との関係を見ながら決定されているが、平屋になった分、空と緑と家の見え方に大きな広がりが生まれている。重厚な玄関扉は、前庭に咲くノウゼンカズラの花とマッチしてこの家に風格を与え、住人の人柄さえも偲ばせてくれる。

この作品は、単純な減築でありながら、住戸内を安全・快適にするリフォームにとどまらず、外部の環境や都市空間にまで美しさがにじみ出ており、サステナブルな空間の奥深さが感じられる。国土交通大臣賞として高く評価する次第である。



リフォーム前後の写真



リフォーム前A'



リフォーム後A



リフォーム前B'

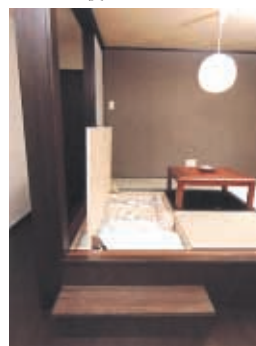


リフォーム後B

リフォーム後C



リフォーム後D



リフォームの動機/設計・施工の工夫点/施主の感想 など

《リフォームの動機》
老朽化のため修繕の見積もりをとったら1,300万かかるとのこと。それならばいっそ、これからの夫婦二人の家族構成に合わせて「平屋に減築」したい。
《設計・施工の工夫点》
・2階を取り払い、スケルトン状態にして改装。耐震性・断熱性の向上。
《基礎》2階建瓦屋根→平屋カラーベストと荷重が減少するため基礎の補強はせず、既存布基礎内部に土間コンクリートを打ち、束を固定、湿気を防ぐ。
《壁》南面のサッシ2ヶ所を巾拭し、新たに1間分の壁を確保。全体的には特に配慮した住宅性能：耐震補強・断熱性アップ・バリアフリー

筋交いではなく、壁率率の高い構造用合板で外壁下地の壁量アップし、耐震性の強化をはかった。
《屋根》既存2階の床をできる限り残し水平面の剛性を高める。
《断熱》床・壁・天井に断熱材を入れ、サッシはペアガラスに。
・鎌倉に合った、和の雰囲気を残した外観・内装に。
・限られた床面積の中で畳コーナー床下等で収納を充実させた。
・20坪たらずと小さいながらも、50代からの夫婦二人暮らしにはお掃除も行き届き暮らしやすい広さ。耐震性・断熱性もアップし、住み心地よく安心して暮らせるコンパクトな住まいになった。

データ		構造/築後年数	在来木	造/	44	年
所在地	神奈川県鎌倉市	該当部分工事費	1,600	万円/総工事費	1,600	万円
該当工事面積	66(120) m ² /総工事床面積 66(120) m ²	居住者構成	15歳以上65歳未満： 2	人/65歳以上： 人/15歳未満： 人/ペット： 犬1匹		
設計者	三井ホームモデリング(株)	担当者	星野 美奈子			
施工者	同上	担当者	原田 一夫			

リフォーム前

リフォーム後

